

令和7年度第2回富良野市文化芸術推進委員会

日時 令和7年9月29日(月) 18時00分～19時40分

場所 富良野市複合庁舎1階文化会館会議室 A

出席 富良野市文化芸術推進委員

篠田信子、岡本幸子、藤田嗣人、諸橋淳、遠藤和章、民輪伸幸

樋口一樹、篠嶋慎一、山田由希

富良野市

市民生活部長(北川)

事務局

コミュニティ推進課長(奥田)、文化スポーツ係長(藤野)、文化スポーツ係(山下)

1 開会

奥田コミュニティ推進課長

すみません、大変お待たせいたしました。改めまして、本日はお忙しいところお越しさせていただきましたありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから令和7年の第2回の文化芸術推進委員会の方を開催してまいりたいと思います。

本日の会議の欠席報告をいただいているのは、石平委員だけとなっております。また、樋口委員は、多少遅れるということでございますが、定刻を過ぎておりますので、始めてまいりたいと思います。

それでは、早速ではございますが、篠田委員長から挨拶いただきまして、その後、議事の方を進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

2 委員長あいさつ

篠田委員長

座ったまま失礼いたします。皆様、大変お疲れ様でございます。今日は天気が非常に良いですけれども、最近、天候がちょっと不安定なときもあり、大変かなというふうに思っております。また、昨日あたりも市内あちらこちらで文化行事がありまして、それぞれ皆さん参加されながら、

いろんなことを楽しんでいらっやったんじゃないかなと思っております。今回、第2回の委員会ということで、アンケート調査の結果を事務局の方でまとめていただきましたので、これに基づきまして、ご審議いただきたいなと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。



3 議題

篠田委員長

それではさっそく議題に入らせていただきます。

ひとつめ、文化芸術活動に関するアンケート調査結果について、事務局から説明をお願いいたします。

奥田コミュニティ推進課長

文化芸術活動に関するアンケート調査結果について、まとめさせていただいております。

資料1の方です。アンケートの期間ですが、公民館フェスタでの周知から始まり、7月広報お知らせ版、各イベントでの周知、また、演劇工場さんにも協力を得ながら、2カ月間、実施してきたところでございます。アンケート結果の一つひとつの内容の説明につきましては、議案資料を事前配布してございますので、ここでは割愛させていただきます。なお、詳細な分析につきましては、基本施策の中の現状と課題の中にも含めて記載してございますので、後ほど一緒に説明させていただきます。ここでは、自由記載も含めた全体的なポイント、全体的な評価について整理させていただいた部分、大まかに4点を記載させていただいております。

まずは1点目、市民の方々の文化芸術に関する関心というものは、非常に高く、また鑑賞とともに、体験も充実した市民参加型の企画・運営というものが期待されているということでございます。また2点目では、特に、子ども・若者への教育的なアプローチが重要視されているので、そのために学校教育との連携が非常に核と考えているということ、3点目、文化施設は市民の活動拠点としての役割が非常に期待されており、さらに、地域特性を生かした企画や、きめ細やかな情報発信等が求められているということ、そして、4点目では、文化財の継承については、情報発信・教育、また、イベントによる市民参加型の取り組みが効果的であるということなどが挙げられています。

ここで委員の皆さんからも、おひとりずつアンケート結果についてのご意見をいただきたいと思っております。

藤田委員

アンケート回答数が421件ということで、これはどうなのだろうと思い、AIで確認してみました。富良野の人口約2万人で、この421件という回答数は、かなり信頼性が高いアンケートであるとAIも回答しています。私も内容を見せていただきましたが、自由意見も見たいうで、いろんな思いが書いてあって、私自身もいろいろ思うことはあるのですけれど、ないものねだりをするのではなく、今できることを、一つずつ積み重ねていけばいいのかなというふうに思います。貴重な意見をいっぱいいただいたと思います。

諸橋委員

私も藤田さんの意見に大賛成で、本当にお疲れ様でした。集計と分析、大変な作業だったと思います。私がハッと思ったのは、やっぱりこういうことをやるときに、いつも小さい子や若い子、高齢者の方に視点が行きがちで、私も母と同居していることもあり、高齢者目線で一連の動きを見る傾向にあるのですが、何が言いたいかと申しますと、この回答してくださった方のなかでは40代の方も多く、また30代の方も回答してくださっていて、その人たちにぴったりくるような内容のものがちょっと少ないみたいな意見を見た時に、確かに言われてみればそうなのかなというところもあるので、そのあたり膨らませていければ、もっと市民の皆さんが乗ってくるのかなと感じました。

遠藤委員

このアンケート結果、特にあの回答数が400件を超えている。短期間で事務局の方が大変苦労されたのだろう

と思います。結果については、ここに記載のとおりかと思います。あとはこれをいかに具現化して、今後の文化芸術の振興に役立てていくかということになるかと思っています。これからも大変な作業になるとは思いますけれども、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

民輪委員

今回のアンケート結果の感想ですけれども、特に、学校教育のところを感じた部分ですが、子どもへの教育的アプローチ、学校教育との連携が鍵だということですね。ただ、正直、今、学校でも実際に取り組んでいるのが、富良野演劇祭や小中学校音楽発表会の参加、6月には音楽大行進などですが、いずれも授業時間や授業時間外のところで取り組んでいる状況です。その部分について、市民の皆さんもこういった学校教育との連携に高い期待を寄せているということですが、さらにこれ以上、なにか取り組んでいけるのかなってというのは、私たちも皆様のご意見をいただきながら考えていかなければならないかなというふうに思っています。正直、学校現場の方では、そういったものについて整理していかうかなという状況でもあります。ただ、やはり保護者であったり、地域・市民の皆様の意見も無視することもできないということも重々理解しておりますので、整理もしながら、どこまで連携できるのか、というところを今後考えていけたらなというふうに思っています。

篠嶋委員

これを読んで、本当にもうなんか直感的に思ったことですが、諸橋委員が言われたように、若者と高齢者、まあ、高齢者よりも子供に対するアプローチに偏りそうだなという印象を持っていましたし、文化芸術基本条例の前文、通路に掲示されているポスターも読んだのですが、子供たちの感性を高めて文化のまちにしていこう、というような雰囲気を感じるのですが、確かに必要なことだと思います。ただ、これから少子高齢化になる時代のなかで、やはり40代や50代の方が何か趣味を見つけて文化的な活動をして、そして、定年退職した後にも、もっと活発に、生きがいを見つけて、引きこもらずに、健康に暮らしていける、そんなところまでちょっと考えて僕も今活動しているのですが、そういった意味でも子どもたちに対するアプローチは当然必要ですけれども、市民全員ってどうか、いろんな人が使いやすいものになっていくように気をつけなきゃなって思いました。

山田委員

この回答数421件っていうのを見て、私はすごくびっくりしました。文化祭ですとか大体1回の公演、11月2日、3日と2日間開催して、来てくださる人数っていうのは200名を超えるぐらいだと思うのですが、その倍近い件数が2カ月で集まったこと、そして、回答された方の年代が思っていたより幅広いなっていう印象を受けました。そして、この後半に書いてある意見っていうのは、本当に幅広い方の意見があって、すごく貴重な意見だなっていうのが印象的です。あと、どの年代の方に、何が刺さっていくかっていうのが正直なところ、やっぱり流行りだったり、その時のみんなが好きなものっていうのが違うんだなと思いましたし、また、地元にはきつといっぱいいろんなことできる人がいると思うので、そういう方たちの力を借りて、公民館フェスタで取り組んだ体験だったりとか、そういった場所を増やしていったら、こういうことやっているよって、発信していくことが、きっかけになってくると思うので、意見を取り入れて進めていきたいというのが感想です。

岡本委員

私も421件の回答ということで、その多さにびっくりしました。そしてこの膨大な量をまとめていただき、ありがとうございます。すごく共感したのですが、最後に、自由意見を書いてくださいという問いがあったのはすごくよかったなと思っています。もともと、このアンケートが文化芸術活動に関することなので、文化に興味を持っている方が、回答している傾向があると思いますが、普段、皆さんが文化に対して、市に対して、こうしてほしい、サンエーホールがこんなふうに使われたらいいのにとか、具体的なアイデアがたくさんあるっていうことを、この最後の質

問項目があることで感じました。今後の計画を策定していくにあたって、いろんなヒントがこの中にあると思いました。

篠田委員長

ありがとうございます。本当にあの皆さんの意見それぞれが、そっぴりな、そっぴりな、というふうに、感じたわけですし、これからアンケートをどうしていくのかってことが一番大切になってくるのかなとは思いますが、これらを踏まえて一つひとつがとっても大事な資料になると思いますので、大事にしていきたいなと思います。

奥田コミュニティ推進課長

それでは次に、資料2、施策の展開について、基本施策について、説明してまいりたいと思いますが、まず前提として、本日の会議では、現状と課題、これまでの事業例という部分を中心にご意見・ご議論を頂ければと思います。

今後の取り組みについての部分につきましては、第1回の会議でも説明させて頂いておりますが、こちらの方は、今後さらに市民も巻き込んだ座談会で、色々なアイデアを頂き、その意見をまとめたものを委員の皆様でさらにご議論頂いて、作成してまいりたいと思いますので、何卒ご理解の程を宜しくお願い致します。

まず、施策体系について説明いたします。

基本方針1 「ふれる」、「多彩な芸術鑑賞の機会の充実」として、3つの基本施策を考えております。

1つ目は気軽に文化芸術に親しむ機会の充実ということで、誰もが文化芸術を楽しめる機会の充実、2つ目は子どもの文化芸術活動の充実ということで、子どもたちの未来を拓く文化芸術活動の充実、3点目は情報発信の充実ということで、文化芸術の魅力を伝える情報発信の充実、という、この3つの基本施策で構成してまいります。次に、基本方針2 「はぐくむ」、「共創による文化芸術活動の推進」として、これも3つの基本施策を考えさせて頂きました。まずは、活動の活性化に向けた人材の確保・育成、2つ目は活動の協働と基盤づくり、3つめは文化芸術活動の展開を支える環境づくり、としています。

次に、基本方針3 「つなげる」、「文化をツールとしたまちづくりの推進」として、こちらの基本施策は2つです。文化芸術を通じた多様なつながりづくりの推進と文化芸術と地域の力を結ぶまちづくりの推進としています。

最後です。基本方針4 「つたえる」、「文化芸術の継承と活用」として、こちらの基本施策も2つです。文化財等の保存と活用の推進と地域の特色を活かした文化芸術の継承と活用、ということで考えております。

それでは、早速、1つ1つの基本施策の方について見ていきたいと思いますが、先ほど申し上げましたとおり、本日は、現状と課題、これまでの事業例という部分についてご意見頂きたく思います。何度も申し上げますが、今後の取り組みについての部分につきましては、今後の座談会で多くのアイデアを頂いた後、それをまとめたものを委員の皆様でご議論頂いて作成していきたい、そう考えておりますので、あらためて宜しくお願い致します。

まずは基本方針1の基本施策1です。

誰もが文化芸術を楽しめる機会の充実ということで、アンケート結果からは、関心度は79%、行った人は77%と高いが、一方で参加した人は34%、また年1回以下の直接鑑賞が25%ということで、体験や参加できるような機会を増やし、主体的に関われるよう環境づくりを進めていくことが求められております。

篠田委員長

今、事務局から説明いただきましたけれども、このひとつの現状と課題のところ、何かそれぞれ委員さんの方でご意見がありましたら頂きたいのですけれども、どなたかございますか。

諸橋委員

おそらくあのアンケートの項目にもいくつかあったかと思うのですが、経済的な理由があったり、また、遠くて行けないとか、時間がないとか、あとは、もしかしたら、これだったら行きたいって思うものが、現時点で限られてしまっている。さきほど、みなさんもお話にあげていらっしゃいましたけれど、年代別にまた関心も違うってところをどう組み込んでいけるのかなって思いました。

そして、多分、触れるっていうのは、何か演劇を見たり、私は、へそ祭りで太鼓がすごい面白かったって、あのそういう風に見る側として触れるということと、あと、今、自分が練習しているものとか、子どもさんの演劇とかも、そういう機会もすごく大事なので、どんどん増やしていったらいいとは思いますが、もっと市民の人が有名人が来なくても、自分が発信者になれるような場づくりが、いくつかこの事業例の中に入っているかと思うのですが、もう工夫することによって、より参加しやすい感じになると面白いのかなと思いました。

一個だけ例を申し上げますと、私がかつて住んでいた国では、毎年6月21日は音楽の日っていうふうに決まっています、プロもアマチュアも、それこそ仲間同士でおじさんおばさんバンドやってる人も、その日だけは通りに出て、夜中までドラム、ギター鳴らしても構わないっていう風になっていて、それがお祭り騒ぎに毎年なっていて、それにめがけて、みんな一生懸命練習するみたいな、なんかちょっとそういう、脚光を浴びるみたいなのもあっても面白いのかなと思いました。

篠田委員長

ありがとうございます。そうですね。やっぱりなかなか何かきっかけがないと、なかなか、案外やってみると楽しいのかもしれないですね。他の方で何か？

篠嶋委員

僕は文化協会に加盟していて、その文化協会の中で、今、高齢化や人数が少ないっていうことを、なんとかしようということで、ここに事業例でも出ている公民館フェスタとか文化祭を、事務局にもご協力をいただきながら、なんとか人をたくさん呼ぼうっていう活動をしています。

それはやっぱり、見る機会を増やして、触れていただくということにつながって、そこで、やってみたい、という方を増やしていきたいということで、いろいろ考えて、やっているところですけど、そういった動きが、文化祭とかじゃなく、いろいろなところで起きて、それで、触れる機会が増えれば、もっと市民に、こんなのやっているんだっていう、機会が増えるので、そこを計画で後押ししていただけたら、すごくいいなっていう風に思っているので、どういう形になっていくのかわからないんですけど、こういう僕たちの活動がもっとやりやすくなればいいな、と思っています。

民輪委員

誰もが楽しめる機会を、ということで、例えば、うちの子供たちのことを考えた時に、地域のことも先ほど話が出ていましたけれども、一つの例でいくと、スクールバンド活動は、なかなかその学校での指導者っていうのはいないのが現実です。

そこで、例えば、地域の吹奏楽団の方が、教えてくれるとかじゃなくても、演奏しているところに子どもたちが、興味があれば行って、演奏を見せてもらったり、教えてもらったりすることが、比較的、簡単にできるなど、盛んにそういったことが行われれば、子どもたちも興味を持っていくのかなっていう気がしながら、今、話を聞いていました。

篠田委員長

ありがとうございます。はい。多分、あのこの課題がきちんとこうある程度、もうちょっと明確になっていくと、本当に、次に何をしていくのかなっていうのを見せてくるのかなと思うのですが、

奥田コミュニティ推進課長

ありがとうございます。民輪委員がおっしゃった通り、昨日も実は吹奏楽団が F プラザでロビーコンサートを初めて実施しました。こうした新しい取り組みが増えていけば、自然と市民が芸術に触れる機会も広がっていくのではないかと感じているところです。また、先ほど篠嶋会長からもお話があったように、「芸術に触れる機会を増やしていくこと」が重要だと考えております。アンケート結果でもご指摘があったように、特に「若い世代がどのように関わるか」という点については、事務局としても課題認識を持っており、何か手立てがないかと検討しているところです。篠田委員長とも先日話をしましたが、コンサートを開催すると満席にはなるものの、どうしても来場者の年代が偏ってしまう傾向があります。今後は、若い人を意識的に呼び込むような取り組みも必要だと考えています。そのため、座談会では、若い世代がどのような形で芸術文化に触れられるか、また、どのような工夫をすれば興味を持ってもらえるのかについて、皆さまから幅広くご意見を伺いたいと思っています。

次に基本施策の2です。

子どもたちの未来を拓く文化芸術活動の充実ということで、学校では、森林学習プログラム、未来づくりフォーラム、演劇祭、音楽発表会など、いろいろな活動により文化芸術に触れる機会を提供していただいております。また、地域学校協働事業、メセナ事業等の活用により、学校での文化体験などが行われているという現状です。一方で、各項目のアンケート結果からは、子どもたちを対象とした、文化芸術政策の充実に対して非常に多くの市民が期待を寄せているということが、アンケート結果から伺えますので、次世代を担う子どもたちがさまざまな文化芸術を身近に感じることができる取り組みを、積極的に推進する必要があると考えております。

篠田委員長

この基本施策2について皆さんのご意見ありましたらお願いいたします。

民輪委員

私はこのとおりでいいと考えています。学校現場では、要するに指導者が多くないため、本格的な文化芸術活動を子どもたちに提供していくことがなかなか難しい状況ではありますが、地域資源・地域人材を十分活用したうえで子どもたちの表現力とか、感性を伸ばす取り組みは、各学校でも必ず教育課程の中に位置づけて取り組んでいるところではあります。子どもたちの知性や感性を高めて、生涯にわたって芸術を愛する心を育てるということで、非常に大事にされているところではあるのですが、やっぱり先ほど申した通り、なかなかそのすべてを組み込んでいくというのは非常に難しい状況のなかでも、各学校では十分に取り組んでいるのかなというふうには思っています。ただ、もう少し社会教育等と連携をしながら整理できるところは整理していけたらいいのかなというようなところが、私の率直な意見です。

篠嶋委員

私は、学校を訪問する機会が多くて、市内の学校をすべて訪問していますが、子どもたちの作品が学校の廊下に飾られていたりするんですね。そして、その中には、すごく素晴らしい作品とかもあって、一度、市民総合文化祭の打ち合わせの時にも発言したことがあります。そういった作品が、文化祭とか、公民館フェスタで展示できないのかなという話をしたこともあります。ちょっと勉強が出来なくても、すごく絵が上手だったりとか、いろんな子どもたちがいるなかで、そういう展示をする機会を設けることで、いろんな人の目に触れて、創作意欲とか、子どもたち一人ひとりの得意な分野を伸ばすきっかけにもなるのかなというのを考えていて、この条例がそういうところにも使えたらいいなというふうには思っています。

樋口委員

演劇工場ワークショップアンダー15 ということ小中学生を対象にワークショップを始めて2年半が経ちました。

そこは学校も年齢も垣根もなく、ただ単に元気で遊びたいという子どもたちが集まって活動をしております。もう卒業した子もいますが、20人ぐらいの子どもたちが常時来ています。演劇祭とか、学校の学芸会とかで劇に親しんで、その後、そのワークショップをいいタイミングで開くと、子どもたちにも興味が残っていて、そういうタイミングでいろんなことがやっていると、次につなげていけるのかなということは常々感じていますので、例えば、文化祭ですとか、いろんな何かに触れたきっかけで、またすぐその後に、体験できる機会みたいなものも作っていったらいいのかなと考えております。これが、この計画にどうつながっていくのかわからないですが、文化に触れた後に、またすぐそれが体験できるような機会を今後も多く作っていきたいなと思っています。

諸橋委員

どこかのアンケートの答えで見たのですが、すごくこの質の高いプロの人がやる生の舞台なんかを、富良野の小中高のお子さんたちが鑑賞に行く機会みたいなものは、富良野市にはあるのでしょうか？

奥田コミュニティ推進課長

以前は、市内の小中学生がバスで一斉に文化会館へ移動し、芸術鑑賞授業のような取り組みが行われていました。しかし、実施にあたってさまざまな課題が生じ、現在は中止となっている状況です。特に、学校側の負担が大きいという点が大きな要因であったと聞いています。こうした背景を踏まえると、今後どのような方法で子どもたちが芸術に触れられる機会を確保していくかという点も、座談会で取り上げるべきテーマの一つになるのではないかと考えています。

続きまして、基本方針1の基本施策3、文化技術の魅力を伝える情報発信の充実というところでございます。こちらアンケート結果としては、情報取得手段としては、市広報紙、チラシなどの紙媒体が、広く活用されているところでございますが、デジタルメディアの方も一定程度利用されていて、特に若年層を中心に情報取得の手段として浸透しつつあるというような回答結果になっているところでございます。また、一方で、情報がないというような声も少なくないため、より見通しの良い総合的な情報提供体制を整えていく必要があるだろうというところで、課題として記載させていただいております。

藤田委員

今年の公民館フェスタで、篠島さんの太鼓などを聴かせていただきまして、とても感動したのですが、観客の数がすごく少なくて、せっかくこういう機会があるのにすごく残念だなんていうふうに思っていました。あんまりお金がかからない方法で出来ることがありそうだなという気はしますが、まだ思いついていません。

樋口委員

僕もこの点については常に苦労しております。例えば、新聞記事ですとか、市の広報誌にも載せさせてもらっていますが、なかなかやっぱり見ない人は見ないですよ。特に、うちの家族なんかは全く見ないです。どうやったら皆さんに情報が行き渡るようになるのかなっていうのは、僕も常に悩んでいます。例えば、市のラインとかは活用出来ないのでしょうか？このまえ、粗大ゴミの申し込みをしましたが、あれは非常に便利だなと思いました。登録者数の方がどれぐらいいらっしゃるのかなっていうことも気になりますが。

北川市民生活部長

富良野市のラインですが、いろいろな意見をいただいておまして、プッシュ型として活用できるラインというのはすごくいいツールだと思うのですが、メッセージが多すぎると邪魔くさいという意見も多く、そういった方については通知オフとか方法もあるわけですが、欲しい情報だけを求めたいという意見が多いのが現状のようです。現在、観光情報だとかもあります、最優先が防災情報になっていて、この情報発信の仕方っていうのは、もういろん

な場面で行政が言われることでありますけれども、どうしたらいいのだろうっていうのは課題としてあります。情報発信の仕方として、いろんな情報を集めて、そこを見れば一目瞭然みたいなものがあつたらいいという話もありますけれども、結局は、そこを見に来てもらえないという課題も出てくるのだと思います。

篠田委員長

自分もいろんなものを企画しながら、ちょっと思ったことがあるのですが、やっぱり今、北川部長がおっしゃったように一箇所で見られる、富良野市内で行われる事業が一箇所で見れる場所がないのかなっていうのは、前から私自身も思っていました。富良野市が主催していることは市の広報誌でわかるのですが、観光協会とか、個人主催のイベントの情報がなかなか取りに行けないんですね。それをなんとか富良野市内の事業などがポチッと押したら全部出てくるような形にするとか、今の時代なら出来るんじゃないかなっていうふうには思いますし、市外から富良野に来られる方も同じようなことをおっしゃっていて、何月何日に富良野に行きたいけれども、その時に、何かやってないだろうかっていうのが、どこを探してもわからないって言われることも多くあります。なんとかそういうことが出来ればいいなっていうふうには思っています。

岡本委員

昔は、新聞やチラシ・広報をみんなが見ていて、新聞のローカル欄を見れば、全部載っているという状況だったのかなと思います。今は本当に多様化していて、もう SNS を見る人はずっと SNS を見ているし、情報を取るにもいろんな方法があつて、また、発信する方法もあつちにもこつちにも発信しなければならないっていう、結構、大変な状況で、情報はたくさん溢れているけれど、非常に取りづらく、発信もしづらいという状況なのかなと思います。一つにまとめて何かできるツールがあれば非常に良いし、私自身、個人的な情報の取り方はロコミが多いのですが、SNS もそんなにやらないので、ただ、熱心に SNS をしている友人もいるので、その方が情報を教えてくれたりしています。自分から情報を探しに行くと、本当に見つけづらく、今日、子どもたちをどこかに連れて行きたいから富良野市内で何かないかなと思って、SNS ひとつにしても、観光協会とか、個人のものとか、一つひとつを見ていかないと、わからないっていう状況で、結局お友達のロコミに頼ってしまう、というふうになってしまうので、一つにまとまっていると非常にありがたいです。

諸橋委員

私は観光客として富良野にもうここ 10 年ぐらい来ていて、その際に利用している SNS のアカウントがありまして「富良野イベント情報局」っていうものですけど、みなさんご存知ですか。それは富良野市だけじゃなくて、美瑛だったり、上富良野だったり、中富良野、南富良野の情報もあつて、今週末もこうゆうことがあるよと、まとめて発信してくれていたりするので、私はずっとこれを利用して富良野に遊びに来ていました。今、見たところフォロワーは 6340 人、これ誰がやっているのでしょうか。結構、ここ一箇所にまとまっている感はありますよね。

事務局

市の職員がボランティアで運営しています。

篠田委員長

いろんな方が、このやっぱり情報を受けるっていうことに関して課題はあるのかなと思いますので、多分、座談会でもこのあたりの意見は出てくると思います。ここはこれでよろしいでしょうか？

奥田コミュニティ推進課長

時間も押していますので、まとめて全部説明させていただきます。基本方針2の基本施策1、「文化芸術活動活性化に向けた人材の確保・育成」の部分です。こちらが現状と課題ということで、「まなぶっく」というものがあつて、「まなぶっく」の発行、またそこに登録することで、人材発掘と活動支援ということも図っているところでございます。

人材育成につきましては、アンケート結果からも、受動的な鑑賞のみならず、やはり実体験を通じた育成が非常に重要であり、さらには指導者の育成というものも必要ということがアンケートの結果からは見えてきています。さらに、もっと言えば指導者が活躍できる場づくり、加えて、文化芸術活動を支える人材、活動をつなぎ広げるコーディネーターの育成も求められているというところで課題としては整理しているところでございます。続きまして、基本政策2「文化芸術活動の協働と基盤づくり」です。現状では、芸術文化事業協会の設置をはじめ、各文化団体に対する補助金等の財政的支援を通じ、活動促進及び基盤強化に取り組んでいるところでございます。今回のアンケートではないですけれども、令和2年の条例策定の際、文化団体だけではございますが、アンケートをとっております。その結果を掲載しておりますが、その中では、各団体の交流不足というような課題が浮き彫りになりました。その後、この交流という部分については取組みを行い、非常に改善しつつありますので、今後も主体的な取組みの後押しができるよう進めてまいりたいと思っておりますし、また今回のアンケート結果では、一緒に文化活動を行う人がいない、仲間がいないという回答した方も、結構いらっしゃいました。今後も協働・共創の場を広げていく仕組みづくりを推進していきたいということで考えているところでございます。続いて、基本政策3「文化芸術活動の展開を支える環境づくり」というところでは、文化施設等の環境整備・文化芸術活動の環境づくりにつきましてはアンケート結果でも非常に高い評価が得られているところでございます。単なる鑑賞施設ということではなくて、市民の活動の場として施設が認識されているという結果になっているところでございます。ただ一方で、まだ活動をよく知らないという回答した方も13%いらっしゃいますし、さらに、もっと鑑賞機会を増やしてほしいと回答していただいた方も多数いらっしゃいます。情報発信のさらなる充実と、あらためて誰もが活動・参加しやすい状況づくりの構築、先ほど、諸橋委員がおっしゃっていたような鑑賞機会の充実、優れた芸術鑑賞機会の提供、また、地域性のある企画が求められている、というところで課題として挙げさせていただいております。

遠藤委員

人材の確保育成についてです。私はスポーツ協会ですけれども、中学校の部活動の地域展開の議論を進めているなかで、広い人材の確保が大変危惧されていて、その確保は難しいという部分があります。これは文化についても同じだと思っていて、スクールバンドの指導者なども少ないという話も聞いておりますので、そのようなことも根本的に入れてもらえたらなという感想であります。次に、文化会館や演劇工場において、どのような芸術活動を行ってほしいかの設問の回答のなかにサンエーホールでの活動をよく知らないという回答がありますが、これはサンエーホールで行われている活動を知らないのか、それともサンエーホールで自主的に何か活動しているのかを知らないと答えているのか、両方取れるのかなと思っております。そこで、今さらですけれども、質問した意図、この回答を求めた意図を確認させてもらいたいと思っております。

奥田コミュニティ推進課長

サンエーホールで行われている活動について回答を求めていたのですが、アンケートを実施する側として、回答者がその質問をどのように受け止めるのかについて、もう少し深く考えておく必要があったと感じています。

民輪委員

地域と学校をつなぐ専門職としての人材を配置する、地域と芸術家などをつなげるコーディネーターを育成するとありますが、コーディネーターの存在っていうのは本当に大事だなっていうふうに思っています。何をしても、学校と地域をつなぐ方がいるかないかで、全然、連携の深さが変わってくるんですね。ただ、コーディネーターは育成しなくてもいいのかなというふうに思うんです。コーディネーターを発掘するとか、配置するとか、とにかく地域の方で、学校と地域を結びつけてくれるような人材を確保するとか、そんな感じであれば、別に育成はしなくても充分なのではと思いつつ見えていました。

篠田委員長

ありがとうございます。では、次、お願いいたします。

奥田コミュニティ推進課長

基本方針3「文化をツールとしたまちづくりの推進」、基本施策1の、文化芸術を通じた多様なつながりの推進というところ。こちらの方もアンケートでは、文化を感じるまちの一般的なイメージ、特にその中で富良野市において文化を感じる分野というものについて聞いていますが、地域性、自然との結びつきというものが、非常に強調された結果になっており、地域に根ざした文化芸術活動が市民に広く認識されていることが伺えるアンケート結果になっています。また、その一方で、地域の人々のふれあいだとか、他の地域または外国人住民の方との交流というものについては、いずれも回答割合としては低い状況となっていますが、本市の文化的多様性や創造性を高めるうえでは、非常に重要な要素だと考えております。文化芸術を生かした世代間、また地域間、また異文化国際交流を促進するとともに、自治体間、さまざまな文化芸術活動、団体間の交流など多様なつながりをさらに広げていく必要があると考えています。次に、基本施策2の文化芸術と地域の力を結ぶまちづくりの推進です。本市では、演劇のまちづくりというものを推進していますが。演劇のまちづくりの発信を強化するため、昨年度、国の補助事業を活用し、観光分野と連携して、ふらのナイトタイムステージということで、本市に長期滞在している、特に欧米系のスキー客を対象に、滞在宿泊先と演劇工場を結ぶ二次交通と文化芸術鑑賞と組み合わせた旅行商品を造成し、スキー以外の魅力を作り上げて、ナイトタイムエコノミーの活性化をはかる取組みを行いました。これは、その取組みとともに地域の文化振興や文化団体の発展・人材育成にもつなげていくことを目的としています。今後もより一層、他分野との連携を強化し、文化技術の推進、さらにはスポーツの文化的側面の推進も図りながら、健幸都市の形成、地域の魅力向上につなげていきたいと考えているところでございます。

山田委員

今のナイトタイムエコノミーですけれども、全然知らなかったのですが、昨年度から取り組んでいることなのでしょうか。

奥田コミュニティ推進課長

これは昨年度から取り組んでいる事業です。海外からのお客様が最大で80名ほど来場され、市民の方々にも合わせて鑑賞していただきました。演目としては、和太鼓の鼓動さん、富良野高校書道部の皆さん、山中邦楽研究室の皆さん、さらに少林寺拳法の光明寺道院の皆さんにも出演いただき、パフォーマンスを披露しました。

外国人のお客様は1公演あたり70～80名ほど、地元の方々も50～60名ほど来場され、大変にぎわいのある催しとなりました。

山田委員

わかりました今内容を聞いて一致しました。私の知っているイベントでした。ありがとうございます。

奥田コミュニティ推進課長

最後、基本方針4「文化芸術の継承と活用」です。基本施策1、文化財等の保存と活用の推進についてです。こちらの方、生涯学習センターとも話し合いながら、文化財保護審議会での議論も共有していくと考えているところでございますが、アンケート結果でも、保存・活用の担い手不足、また認知度の低さというのが課題となっているところ。また、これらの文化財を将来にわたって、適切に保存していかなければならない、また観光をはじめ、さまざまな分野との連携によって活用の幅を広げていくということも、価値を高めていくことになるだろうということで、課題として記載させていただいているところです。続きまして、地域の特色を活かした文化芸術の継承

と活用です。食文化における地域の特色という部分について記載させていただいております。メイドインフラノという制度がございますので、その制度についての記載が中心となっております。また、富良野高校、統合されましたが富良野緑峰高校時代からの取り組みについても記載していますが、これらの取り組みについて、より拡充を図りながら、富良野らしい食文化を次世代につなげていくということが重要であるというところでまとめています。

遠藤委員

先ほど奥田課長の方から生涯学習センターとの連携を図っています、という話があって、それは理解するのですが、市の総合計画の中、社会教育分野の中で施策として文化財保護という項目が一項目あります。それに基づいて市の教育委員会では教育振興基本計画を立てて、今年度中に改定すべく話し合いが行われています。その中にこの文化財の関係が多分出てくるのですが、こちらとそちら、当然乖離があってはいけないことなのですが、一緒にするのか、二本立てで考えるのか、そのあたり、どうしたらいいのかなと思っています。

それともう一点、地域の特色を活かした文化芸術の継承の活用ですが、単純に市民がこの地域の特色を活かした文化芸術の継承と言った時に、何を思い浮かべるのかと言ったら、例えば演劇工場の素晴らしさとか、要するに、富良野市の特色ある芸術文化といえば、そういうことなのかなと思うわけですが、この中身を見ていくと食文化とかあって、当然、文化芸術の一分野というか、推進項目にも入っているわけで、今さらなのかもしれないですが、この地域の特色を活かした文化芸術の継承と活用の部分、例えば生活文化というふうに変更するのはどうかと思います。生活文化として、括弧書きで華道や茶道、書道、食文化、その他の生活にかかる文化振興を図っていきますと謳っているの、その方が市民としてはわかりやすいのかなというふうに思ったので検討していただければと思います。

藤田委員

私も遠藤さんが発言される前に、このタイトルと内容、ちょっと違和感がありましたが、遠藤委員がおっしゃられたように生活文化というふうにすれば、いいのかなというふうに思います。

篠嶋委員

僕も同意見です。あと、文化芸術の継承に対し、伝えるということを課題として残して、話し合っていくのかっていうことですね。今の流れでいくと、これがその生活に変わって、今ある文化の継承はどうするのか、ということになって、アンケートにも、やっぱり活動していきたいけれどもいろんな問題がある、その問題をせつかく答えていただいているので、例えばですけれども、事務局がないから続けられない、とか、選択できるアンケートとして、その結果をもとに、今ある文化サークルとか、活動している会が、どうしたら次世代に継承できるのかということも考えていかなきゃならないかなというふうに思います。

北川市民生活部長

皆さんの意見を伺って思ったのですが、基本施策1、文化財等の保存と活用の推進という部分で、文化の保存と継承というのは一つのものになるのかなというふうな思いをしています。そういう意味では、基本政策2で、文化芸術の継承と活用となっていますけれども、そのタイトルを継承の部分は施策の1に組み込んでいくというのが、やはり獅子舞ですとか、太鼓もそうですけれども、高齢化含めて、継承していくのは非常に大変だということ、そういったところが非常に課題となっているというのは出てきています。また、施策の2の方ですが、よく「ふらのらしさ」という言葉が言われるんですけれども、じゃあ「ふらのらしさ」というのは何なのかっていうところを聞かれるんですけれども、四季が生み出す美しい自然と、花畑、農地、そして人々の温かさ、調和、それからゴミの関係でいくと、市民の協力によって、この環境が保たれているという部分というのが「ふらのらしさ」ではないかと言われております。そういったものを継承して持続可能な暮らしを守っていくために、自然と人々の協力によって

築かれていくというものを、この施策の2の方に組み込んでいくと、そこには食文化があってもいいのかなっていうことでいくと、先ほど言われていた通り、生活文化っていう部分で表現を変えていくっていうのはいいのかなというふうに感じました。

篠田委員長

今、いろいろと意見でだされていたように、事務局には、生活文化ということで整理していただくということによろしいですか。全体とおして何かご意見ございますか。

藤田委員

行政の努力義務という文言がどこかにあってもいいのかな、というのが個人の思いなのですが、そういう部分があれば文化芸術活動をしていく人たちの勇気につながっていくのかなと思いました。

北川市民生活部長

今のご意見ですが、まさしくその通りだと思います。条例のなかではそれぞれの役割・責務というのが、市民の責務、行政の責務、事業者の責務というのがそれぞれあるわけですので、今日は、現状と課題について整理いただきましたので、このあと座談会も含めて、今後の取組みという部分で少なからず入ってくるだろうと考えていますので、それをどの施策の方に入れるというよりは、全体にかかるような施策になってくると思いますので、そういったことを常に頭にイメージしながら皆さんと一緒に考えていければと思っています。

篠嶋委員

福祉計画でしたり、会議に出席していると、それぞれ目標値みたいなものがあって、この文化芸術の計画に当てはまるのかわからないのですが、例えばこのアンケート結果をもとに、こういう項目をこれだけ増やしていくために取り組みましょう、みたいな具体的な目標があってもいいのかなと思うのですが、計画を作る際には必要なのか、必要ないものなのか、わかりませんが、目に見えないものをみんなで話しあっているような感じもしますので、将来的に文化に携わる人を何人に増やしましょう、何パーセントを目標にしましょうみたいな目に見える目標が、もし書けるのであればわかりやすくなるのかなと思いました。

奥田コミュニティ推進課長

この計画の中に具体的な数値を盛り込むかどうかは別として、今後、この計画が適切に推進されているかどうかを評価していく作業は継続して行われます。その過程で、必要に応じて数値的な目標を設定する場面も出てくると考えています。また、5年間でどこまで達成できたかについて、毎年度、推進委員会において議論・評価を行うこととなりますので、そのための指標づくりの一環として、数値目標の設定は必要であると考えているところであります。

また、次回の座談会については、追ってグループライン等でお知らせいたします。

藤田委員

文化会館の廊下のところに、文化芸術基本条例のポスターがあって、この前、初めて見たんですが、多分、誰も知らないと思いますので、図書館だとか、あちらこちらにあのポスター、せっかく作っていただいているので、貼っていただいた方がいいのかなっていうふうに思います。

篠田委員長

条例を作る時もそうだったのですけれど、座談会、結構エネルギーが必要ですので、みなさんで取り組んで、乗り越えないといけないなと思いますので、丁寧に、覚悟を持って取り組みましょう。